



ハイライト

- 第 0 回地域の世話役養成塾の様子
- 最終回！平成 28 年度を振り返る座談会の模様

目次

- 第 0 回地域の世話役養成塾(市町村職員対象)を実施 ……1
- 沖縄県移住促進事業に係る座談会レポート《後編》 ……2
- 全国の移住情報を発信する施設「移住・交流情報ガーデン」のご紹介 ……4

第 0 回「地域の世話役養成塾」を実施

移住促進に必須の前提知識とは？地域の世話役に適した人とは？
地域の世話役養成塾開講に向け、市町村向け研修会を実施



今年度の「地域の世話役養成塾」を開講するにあたり、市町村職員を対象とした第 0 回養成塾が 6 月 2 日沖縄県立博物館・美術館 講座室において実施されました。17 市町村の職員が参加し、移住者の受入、移住促進に際して必須となる前提知識を得ると共に、地域の人々とどのように連携して進めていけばよいか指針を得ることを目的とした講義、グループワークが行われました。

講師に認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター副事務局長の嵩 和雄さんを迎え「地方移住をめぐる現状と課題」をテーマに講義を行って頂き、講義後のグループワークでは、ファンリテーターとして NPO 法人 home's vi 理事の荒川崇志さんを立て、移住者の世話役候補の見つけ方、呼びかけ方、連携の方法等の具体的な方法を知るための作業に取り組みました。

今後の予定

【移住フェア】

- 6 月 11 日(日)
山口・九州・沖縄 暮らしフェア
(東京)
- 7 月 29 日(土)
ふるさと回帰移住フェア(大阪)
- 9 月 10 日(日)
ふるさと回帰フェア(東京)

【沖縄移住セミナー(移住相談会)】

- 7 月 30 日(日) (大阪)
- 9 月 8 日(金)
- 10 月 22 日(日)(予定) (東京)
- 11 月 4 日(土) (大阪)

【第 3 回沖縄県移住受入協議会】

- 6 月 21 日(水)13:30～
沖縄県庁 12 階

【地域の世話役養成塾】

- 7 月 20 日(木)、21 日(金)
第 1 回講座開講予定

平成 28 年度沖縄県移住定住促進事業に係る座談会レポート《後編》

～ 市町村独自の取組、地域おこし協力隊について等 ～



9 号、10 号と続いた県と各市町村担当者及び地域おこし協力隊による平成 28 年度の移住対策の取組を振り返る座談会(平成 29 年 3 月 27 日於:県庁地域・離島課会議室)、そのレポートも今回で最終回となります。市町村独自の取組や空き家対策等について語って頂きます。

—参加者—

沖縄県地域・離島課 金城明子さん	渡名喜村総務課 桃原さん
久米島町企画財政課 島袋さん	(株)ルーツ 平田さん(受託事業者)
石垣市企画政策課 遠藤さん、後上里さん	ふるさと回帰センター 嵩さん(受託事業者)
宮古島市まちづくり振興班 友利さん	S&L United 株式会社 島袋さん(おきなわ移住の輪 —結—運用者)
国頭村商工観光課 新垣さん	
国頭村地域おこし協力隊 東さん	司会 沖縄県地域・離島課 又吉班長 (以下、敬称略)
うるま市企画政策課 伊佐さん	

移住対策への独自の取組を紹介

—久米島町では久米島移住ガイドブックといった PR 誌を独自に作られたりして積極的な取組が色々ありそうですが。



島袋(久米島町) 大きい独自の取組としては「移住・定住推進アクションプラン」を住民と行政で協働して作ったことです。これは地域活性化センター事業の必要項目だったので策定した経緯があります。プランでは移住とい

うよりは定住、より良く暮らす、島から出ていく人を減らそうというところに重点を置きました。これまで行政と住民のまちづくりの協力の機会があまりなかったのですが、今回はそれが実現できるようになって良かったという声が多く聞かれます。

住民からなる 6 チームが活動しますが、住民と行政の間の橋渡し役として「島ぐらしコンシェルジュ」という地域おこし協力隊の方に

入ってもらい、住民によるミーティングのフィードバックや予算相談を行政に働きかけてもらう活動をしてもらっています。また島ぐらしコンシェルジュの方は古民家を改修したコワーキングスペースに常駐し移住相談を受け付けています。

—石垣市でも移住・定住推進アクションプランを作られているそうですね。



遠藤 そうです。今年度は協議会を 3 回開催しており、計画の草案を作成しているところです。

後上里 年度明け 4 月には移住・定住支援計画を策定し、29 年度はこの計画に沿って取り組んで進めていきたいと思っています。

—他に独自の取組はありますか？

遠藤 石垣島で保育士として働く方の渡航費助成として、一括交付金を使って県外からの場合は 50 万円、県内からは 40 万円の補助を出しています。今後は、県内ではまだ事例がない空き家バンク制度の立ち上げを考えています。市街地では住居不足が見られますが、市街地以外にある空き家などの有効活用の取り組みをしたいと思っています。

—宮古島市はいかがでしょう。課内でワーキングチームを立ち上げられたり、移住体験ツアーに初めて参加して頂きましたけれども。

友利 今は市としての情報発信の方法を検討している段階で住民を巻き込むのはこれからになると思います。子育て、住宅、健康に関わる課長レベルでのワーキングチームを設立しましたが、今後は宮古島市の支所長のメンバーを入れてさらにパワーアップしていきたいですね。移住定住の方向性も素案を作ったり住民をどう巻き込んでいくかも課題としてあります。民間事業者さんからは空き家利用や改造して民泊にするなどのアイデアも出ています。そういった民間のメンバーも取り込んでいけるかを検討していきたいです。



—久米島町の例を取りますと、アクションプランを作るときに国から 10/10 の補助金を受けて、さらに実施するために 2 年後にも更に 10/10 補助金もあります。ぜひ他の市町村も活用して頂きたいと思います。



——国頭村はいかかですか？

新垣 プロジェクトチームというより担当者レベルで動いているので情報共有出来ているものが少ないのですが、使っていない教員住宅を就学している子供のいる世帯に貸し出す動きやちゅらこん事業、ワーキングスペースの整備などの取組があります。

——国頭村の移住体験住宅の活用状況を教えてくださいませんか？



東 去年の11月から稼働し始めて、これまで5組ほどの方が利用しました。原則最大13泊まで宿泊することが出来ます。実績としては最近の利用者で結果的に国頭村内で仕事が決まって移住した方がいます。

——渡名喜村では定住住宅の利用状況と新しい取組でPRしたいものがあればお話し下さい。

桃原 渡名喜村には多用途住宅が6棟9世帯あって、現在6世帯が利用しています。それから前年度のモニターツアー時に言われたのですが、整備された住宅ではなく村に古くからある住宅を自分で改修して住みたい



という声が多かったです。本島は都市化されて沖縄の原風景が失われてしまっているということで、瓦屋根の家など渡名喜には集落の中に今も残っているのそこに住みたいという方がいました。

それから多用途住宅の対象者ではないけれども、島出身のUターンの方や沖縄本島から移住を希望する方も出てきているので受け入れるための住宅整備が必要になってくると思います。今後は空き家の調査や、空き家でも仏壇がある等の理由で中々借してもらえない持ち主さんに対し、金額や整備の徹底の交渉をするなど、具体的な取組をしていきたいと思っています。

——うるま市での空き家活用の取組をお話し下さい。



伊佐 はい。今年度は島しょ地域の空き家を移住希望者向けに活用する為、実態調査と所有者の確認、意向調査を行いました。結果、比較的状态の良い空き家は多く存在するものの、未相続のため所有者の意向確認が取れず、活用可能な件数は多くありませんでした。引き続き調査を行って地域住民の意識啓発等を行いながら活用可能な空き家を増やしていければと思います。

また、空き家を活用したお試し居住を実施しました。2ヵ月間の実施期間に8組計20名を受け入れし、2組4人の移住決定に繋がりが、残りの2組についても空き家待ちの状況となっています。また募集開始からすぐに申し込みが一杯となり、継続や次回の開催について多く要望があったことから、次年度についても開催を検討しているところです。

また、空き家を活用したお試し居住を実施しました。2ヵ月間の実施期間に8組計20名を受け入れし、2組4人の移住決定に繋がりが、残りの2組についても空き家待ちの状況となっています。また募集開始からすぐに申し込みが一杯となり、継続や次回の開催について多く要望があったことから、次年度についても開催を検討しているところです。

来年度には地域での移住者の受入れ体制やルールづくりを行う為、協議会の設立を予定しており、その中で空き家の紹介や移住に係る各種相談・サポートを行う窓口の開設を図っていきたいと考えています。

地域おこし協力隊等の活用、空き家対策への県内外各地の取組や動向など

——そろそろ最後になりますが、この機会に質問や情報提供があればどうぞ。

——久米島町さんは協力隊が15名もいますがどうですか。皆さん3年後はどうなりそうですか。

島袋(久米島町) 町としては何が何でもその後も定住してほしいという強い希望を持っているわけではないです。一方で島ぐらしコンシェルジュは将来法人化したいという展望があります。今後も人材の育成や採用方法などの方向性を考えています。

——事業というか活動でそれぞれ将来像が違うということですね。東さんは地域おこし協力隊になって1年目ですか？3年終わったら起業とか考えていますか？

東 そうですね。前職が不動産屋さんだったのでそれを活かせるのではないかと。やんばるには不動産屋がないので役立つこともあるのではないかなと考えています。また沖縄から学生が進学や就職で島を出ていくときに、内地で住宅を探す橋渡しや生活のサポートをすることも出来るんじゃないかと思っています。地元では特定空き家の問題などについても説明やフォローとかも出来ると思います。それで利益を上げられたら大成功なんですけれども。



嵩 そういところの空き家の管理はNPO、社協とかがしているのですか？

又吉 ないと思いますよ。隣近所が親切でやっているのではないのでしょうか。

嵩 逆に全国によっては団体やNPOがやっているところが出てきています。高齢者世帯が増えて、独居の高齢者が入院などで長く家を空ける場合はそういういったところが管理をする体制ができてきています。

島袋(久米島町) 国頭村の空き家調査はどこがしているんですか？

新垣 建設課ですね。危険家屋調査をする目的でやりました。企画のほうで条例を次年度作りたいたい…今後の管轄までは未定です。

嵩 空き家活用計画を作るとお試し住宅をやりやすくなりますよ。空き家活用計画を作ると空き家バンク登録物件は旅館業法の適用除外になってお試し住宅に使えるメリットがでできます。そのまま住んでもらうこともできますよ。民泊は別で認可が必要で空き家を使うことはできないのですが。

金城 空き家活用計画を作ろうというところは出ていますか？
県内ではまだないようですが。



嵩 メリットがないとのことで、今のところないようですね。県外の例なんですけれども、国の事業50%、県の事業25%使って自分ところの持ち出しは1/4だったという。それを定期借家で無料で10年間借り上げて月家賃2万円で運用しているところがあります。修繕費用は大家さんの負担はなしで固定資産税も免除されますし、10年後はきれいな状態で持ち主に返るといふ、大家さんとしては大きなメリットがあります。

島袋(久米島町) それには何か計画を作らないといけないんですかね？

嵩 いや、国の事業なので。いわゆるサブリースなんですね。それを民間でやるか行政でやるかなんですけれども。どこもだいたい市町村が1棟2棟の規模でやっています。また大家さんにとって行政が間にはいると安心感があると思います。

島袋(久米島町) お試し移住というより空き家を救ってあげたいというのがありますね。



平田 リフォームって水回りなど30万くらいかかるんじゃないですか。家賃を考えると10年は借上げを考えないと回収できない。大家さんとしては10年は長いと感じられるようで、そこが問題なんですよね。

終わりに

——最後に次年度の意気込みを金城さんをお願いします。

金城 今年度新たに独自の取組を進める市町村が見られました。まだまだ温度差がありますが、次年度はより移住対策に取組む市町村が増えるといいなと思っています。移住者は数というよりは、どういう方に来て頂くのが大切だと思います。そのため受入の在り方は各市町村で違うと思います。県としては今後取組もうとする市町村に対して出来る限りのサポートをしていきたいと思っていますので、気軽に相談して下さい。また移住相談会やモニターツアー等の支援メニューを用意しているので積極的に活用して頂きたいです。県全体として移住の取り組みが活発化していけば良いなと思っています。



移住情報発信施設をご紹介します！ 移住・交流情報ガーデン

東京都中央区京橋1丁目1-6 越前屋ビル1F



移住・交流情報ガーデン HP より

東京八重洲にある「移住・交流情報ガーデン」は、地方への移住関連情報の提供・相談支援の一元的な窓口として総務省により開設されました。「全国移住ナビ」ウェブサイト等を活用した相談を実施し、利用者のニーズに応じて地方自治体の窓口へ繋いだり、厚生労働省や農林水産省と連携し、しごと情報や就農支援情報を提供しているほか、各地方自治体の移住・交流に関するパンフレット等の閲覧コーナーを設けています。また、週末を中心に地方自治体等による移住・交流に関する相談会やセミナー等が開催されています。



移住・交流情報ガーデン HP より

沖縄県においては、6月9日(金)と翌年1月に、同施設において、移住セミナー及び相談会を開催する予定となっております。また、当施設においては、沖縄県、自治体のチラシ設置も可能となっておりますが、設置自治体が少ないのが現状となっており、積極的な活用をお願いします。なお、こちらの施設に自治体の資料、パンフレットの設置を希望する際には、沖縄県地域・離島課までお問合せください。